

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2022年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
教養	社会人入門 3,4	必修	2年 前・後期	6名
専門	専修実技 1,2,3,4	選択	1,2年 前・後期	5名
専門	ピアノ A	選択	専攻科 前期	1名
専門	ソルフェージュ 1,2	必修	1年 前・後期	5名
専門	伴奏法	選択	1年後期	5名
専門	室内楽 A	必修	専攻科 前期	2名
教職	教育実習 事前事後指導	教職必修	2年 前・後期	5名

2. 教育の理念

楽曲に対しての知識や理解を深め、自らが感じ、考えたことを表現できるようになること。
又、その手段として演奏技術を高め、さらに観客の前での効果的なパフォーマンスへつなげていくことを目標としている。

教職科目においては、計画性・適応力・実践力が求められるため、あらゆる場面を想定して、学生自らが考え授業を展開できる力を身につけることを目標としている。

3. 教育の方法

専修実技の個人レッスン、また室内楽のレッスンにおいては、まずは本人の感じ方や意思を尊重するように努めている。それを発言しやすい環境を作るのはもちろんのこと、その上で違った解釈があれば提案し、それらを実践するために必要な技術も指導している。実技に関連して、ソルフェージュの授業では、自らの音を聴く力を養うため、旋律や和声の書き取り、正しくリズムを把握すること等を指導している。又、しばしばフォルマシオン・ミュージカルの指導法を取り入れ、楽曲をあらゆる観点から分析し、総合的な知識を身に付けられるよう取り組んでいる。

伴奏法や教職科目においては、学生一人一人の発表や模擬授業に対し、他の学生や教員からコメントを発表する形をとっており、それらを取り入れながら、回を重ねるごとに自ら改善していきけるよう指導している。教育実習に向けては、よりよい授業を展開するための方法をお互いディスカッションする時間も設けている。又、伴奏法の授業では、短いサイクルで学習を見直すことにより、学習した内容がより定着するよう、一つの単元が終わるごとに振り返りとまとめテスト

を実施している。

4. 教育の成果

2022年度も、時期によっては新型コロナウイルス感染症の影響が続いたが、科目の特性を考慮し、全て対面での指導を行った。その中でも、人数の多い科目については密にならないよう努め、又ソルフェージュの授業においては視唱を減らす等の対策を行った。

実技においては、今年度の学生の習熟度に合わせ、基礎的な知識や技術の強化に力を注いだ。その結果、学生個人個人が自ら考え、効率的な練習・研究に取り組むようになったと思う。又、自分の意見を述べるのが苦手な学生に関しても、毎回のレッスンでディスカッションを重ねることにより、少しずつ自らの意見を言えるようになったことは大きな成果だと思われる。2022年度も人前での演奏機会は少なかったが、マラソンコンサートや定期演奏会・卒業演奏会などの数少ない機会に照準を合わせ、熱心に取り組むことができていたように思う。

又、伴奏法においては今年度も受講人数が少なかったため、授業時間内に、アドバイスを基にした練習をする時間を設けることにより、課題をその場で改善するという効率的な学びになったと考える。振り返りの感想や授業評価アンケートの結果によりそのことがうかがえる。

5. 今後の目標

感染症対策が緩和された2023年度においては、より積極的に学生同士・教員に対して、様々な意見や感想を交わせる環境を作りたい。コロナ禍においてなかなか取り組むことのできなかつた、視唱を含むソルフェージュや、グループ活動等の機会も多く設けることを考えている。

根拠資料

- シラバス
- 授業資料（配布プリント、ソルフェージュ課題）
- 模擬授業評価票（教育実習 事前事後指導）
- 小テストの写し（伴奏法）
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- 定期演奏会・卒業演奏会プログラム